

公益財団法人 福武財団

助成担当

〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7 Tel: 087-892-2550

E-mail: mail@fukutake-grant.jp

URL : <https://fukutake-foundation.jp/subsidy>



Official Site



Instagram

公益財団法人 福武財団

2025年度地域振興助成 事業案内

それぞれの歴史や固有の環境を背景とした、

個性と魅力溢れる地域が日本各地で継続、発展していくことを期待し、

そのための活動を行う団体、個人に助成を行っています。

ごあいさつ

昨今の日本において、地方では人口の減少や過疎化に伴い、経済的な衰退が年々加速し、地域間の格差が拡大し続けています。当財団は「在るものを活かし、無いものを創る」という信念に基づき、長年にわたり地域づくりの活動を行っております。

今年度は第6回瀬戸内国際芸術祭が開催されると共に、直島新美術館が開館いたします。瀬戸内国際芸術祭は、地域ごとの歴史や文化、個性を尊重し、地域住民とアーティスト、訪れるゲストとの新たな交流を生み出してきた、瀬戸内地域における重要なイベントです。前回2022年に行った瀬戸内国際芸術祭は、世界的なパンデミックの影響から様々な制限がある中での開催となりましたが、その状況下であるからこそ、アートに触れ、感性を働かせることが人々の交流や現代の地域社会において、ますます重要な要素であることを実感するきっかけになりました。アートと地域社会の接続は直島新美術館のコンセプトにも繋がっています。瀬戸内国際芸術祭や直島新美術館が、地域に活気をもたらすことで地域内の繋がりを育む拠点となり、訪れるゲスト含め様々な人々が交流することで、改めて瀬戸内地域が笑顔溢れる場となることを期待しています。

当財団の助成事業は、地域に根差した日々の活動を支援し、地域社会の活性化に寄与する重要な活動と自負しております。ここ数十年の日本において、時代の流れとともに様々な社会状況の影響から、地域活動やコミュニティの在り方が変わり続けていることを日々実感しています。この変化を受け入れ、地域について考え続けていくことが地域づくりにおいて重要であると考えます。私たちは全国で活躍されている地域づくりに取り組む皆様と手を取り合い、共に学びながら、各地域が抱える課題に向き合っていきたいと考えています。そして、この助成事業が、個性と魅力あふれる地域づくりに寄与することを心より願っております。

2025年5月吉日



公益財団法人 福武財団
理事長

福武 東明

福武財団について

公益財団法人 福武財団は、直島・豊島・犬島を拠点とする美術館事業、日本各地における文化・芸術による地域振興活動および瀬戸内海沿岸の地域振興活動への助成事業、瀬戸内国際芸術祭などの支援を行う自主・共催事業の3つの事業を柱として2012年10月に発足しました。地域振興活動を通じて、一人ひとりが「Benesse＝よく生きる」を考え、お年寄りの笑顔のあふれる、よりよい地域をつくることを目指しています。

福武財団の理念

「Benesse（＝よく生きる）」
文化、芸術によって、活力にあふれた、個性豊かな地域社会の発展に貢献します。
福武財団は、日本の近代化の流れの中で行われてきた破壊と創造の繰り返しを見直し、「在るものを活かし、無いものを創る」を信条に、人々がよりよく生きる地域をつくること、お年寄りの笑顔が素晴らしい地域をつくることを目指し活動しています。

2025年度福武財団の助成事業について

「地域振興」という共通の目的の下、日本全国のアートプロジェクトを対象とする「アートによる地域振興助成」と、瀬戸内地域を対象とする「瀬戸内海地域振興助成」により、特色ある地域づくりを目指す個人・団体に助成を行っています。

助成対象となる事業は、地域住民と地域に関わる人々の創造的で文化的な活動を通じた、まちづくり、地域産業おこし、関係人口の増加や移住・定住などへの支援となる活動です。その結果として、活力あふれる個性豊かな地域社会の実現と発展に寄与することを目指します。

上記の助成趣旨を達成するため、選考にあたっては「地域への還元」「事業の継続性」を重要視しています。「地域への還元」とは、まず団体の活動内容が地域社会に受け入れられ、成果が地域へと還元されていることが肝要です。また、地域振興は短期間で飛躍的に課題解決・達成されるものではありません。そのため、地域課題を解決するための施策を実行する仕組みづくりと同時に、大小にかかわらず活動を継続できる仕組みづくりが大切なポイントと考え、選考を実施しています。

〔具体的な事業内容〕

1. 助成団体の選定、助成金の支払い

2つの助成プログラム（後述参照）の実施（選考会の運営等）

2. 助成事業、助成公募に関する広報活動

3. 助成財団への活動支援

選考委員と助成事業訪問、団体同士の交流機会・学びの場を創出、成果報告会の実施、

助成団体の活動の広報サポート など

アートによる地域振興助成

現代アートのもつメッセージ性を軸としながら、地域住民や行政と協働して、その土地の独自性を活かした地域文化の振興に資する事業を助成対象としています。

事業助成は、日本国内におけるアートプロジェクトの立ち上げと継続的発展を目的として助成をしています。

瀬戸内海地域振興助成

瀬戸内海地域の文化力向上に資する、伝統芸能・工芸の振興、地元産品を活かした地域産業おこし、古民家の改修・保存・活用などの活動を通して、瀬戸内海と関わりを持ち、移住・定住に結びついていく事業を対象としています。瀬戸内に関係する事業であれば、団体の活動地域が瀬戸内海周辺でなくとも助成の対象となります。

前年度、当該年度助成実績（公募助成）

	アートによる地域振興助成		瀬戸内海地域振興助成	
	件数	助成額	件数	助成額
2024年度	15	21,984千円	13	7,013千円
2025年度	14	17,200千円	12	6,810千円

地域振興助成2025年度採択事業 活動紹介

アートによる地域振興助成

WEBでの閲覧はこちら▶



瀬戸現代美術展2025

団体名／瀬戸現代美術展実行委員会 代表者名／近藤佳那子
活動地域／愛知県瀬戸市



愛知県瀬戸市は、国内外で精力的に発表し高い評価を受けている現代美術作家が数多く拠点を持つ稀有なまちである。窯業を中心に育まれた瀬戸に根付くものづくりの歴史を体感しながら、瀬戸の美術作家と共にリアリティを持って展覧会を開催する。瀬戸現代美術展を3年に一度継続的に開催し続けることで、展覧会やイベントを通して街と作家との関係をつくり、やきもののみではない瀬戸の新たな価値・文化を創造することを目指す。

炭鉄港アートプロジェクト2025

団体名／炭鉄港推進協議会 代表者名／桜井恒
活動地域／北海道岩見沢市をはじめとする炭鉄港エリア



2019年に日本遺産に認定された「炭鉄港」による地域活性化を目的に立ち上げられた団体で、これまで北海道の空知・室蘭・小樽などのエリアでガイド養成、普及啓発フォーラム、サイクリング、教育旅行誘致、小中学生等向けの出前講座など、多岐に渡る事業を実施。地域内のシビックプライドの醸成、そして地域外への発信・巻き込みの両輪で活動し、地域振興に成果を出してきた。2024年には、初となる炭鉄港アートプロジェクトを開催。

UNZENー自然災害と表現をめぐるアートプロジェクト

団体名／UNZENプロジェクト 代表者名／砂守かずら
活動地域／長崎県島原市・南島原市・雲仙市



UNZENプロジェクトは、写真家・砂守勝巳の作品《黙示の町》の撮影地・長崎県島原半島を訪れたことを機に、2019年より活動を開始。雲仙・普賢岳の噴火災害に焦点をあて、記録と記憶の継承をテーマに、フィールドリサーチや展示を行っている。火山による自然の恵みや影響にも着目しながら、被災地と芸術表現の関わりを探索。地域内外のアーティストらとの交流を深め、表現活動を通じた地域の活性化にも取り組む。

イミグレーション・ミュージアム・東京

団体名／NPO法人音まち計画 代表者名／岡部修二
活動地域／東京都足立区



美術家の岩井成昭が主宰する「IMM東京」は、2011年から地域に暮らす海外ルーツの人びとの生活様式や文化背景を紹介し、それが日常の中で変容していく諸相を「適応」「保持」「融合」という3つのキーワードから探るプロジェクト。また、これまで施設を持たず、様々な場所でするとき限りのプログラムを展開してきた。それらを通じて、多文化社会について参画していくプラットフォームの形成を目指している。

Art and Tidal Flats

団体名／Art and Tidal Flats 代表者名／槇原泰介
活動地域／千葉県木更津市畔戸 小櫃川河口干潟一帯



東京湾に残る自然干潟。そこには潮の満ち引きで現れる前浜と広大な葦原があります。様々な由来で生息する植物や生物に出会える所であり、製鉄所やアクアライン、霞の向こうの富士山や高層ビルを背景にして、かつて浮世絵にも描かれた原風景に繋がっています。アートを通じてこの干潟への関心を高め、風景や環境の保全に寄与することを目的に、場に関係する制作や公開、ワークショップ等を行います。

山中suplexアーティスト・イン・レジデンス & 国際ラーニングプログラム

団体名／山中suplex／Yamanaka Suplex 代表者名／堤拓也
活動地域／滋賀県大津市山中町



大津市と京都市の山間の県境に位置し、2014年に設立。様々な素材を扱える工房施設、屋外での大規模な作品制作を可能とするスタジオ事業にくわえ、近年は国内外の文化実践者と協働し、トークイベント、展覧会、ワークショップ、レジデンスなどの事業を企画・実施。2024年よりレジデンス事業にラーニング事業を組み合わせ、山中suplex周辺地域の資源や文化に着目した企画を実施している。

Circulation for Temporary Commons ー土地が循環していくための、それぞれの作法ー

団体名／Temporary Commons 実行委員会 代表者名／上原啓五
活動地域／宮城県仙台市沿岸地域



東日本大震災で津波被害を経験した仙台市沿岸部にて「コモンズ（共有地）」をテーマにプロジェクトを展開。かつて、松林や谷地から共同作業で地域資源を得た集落は、石油化学製品の代替が進みコモンズを失った。しかし、住民は資源とともに暮らしを作った記憶を持ち、今日まで受け継がれている。この記憶を端緒にアーティストらが地域へ介入、持続的な資源循環を見据え「現代的なコモンズ運営は可能か」という問いへ応答を試みる。

River to River 川のほとりのアートフェス 2025

団体名／ya-gins 代表者名／八木隆行
活動地域／群馬県前橋市中心市街地(前橋市千代田町、住吉町など)



2012年、前橋市中心街の空き店舗をDIYで改修しオープン。県内外のアーティストの展覧会や演劇、音楽ライブを企画し、地域交流の場となる。アーツ前橋の連携企画にも参加してきた。2019年、旧本間酒造跡で「ソウウレシ」展を主催し、地域の記憶や魅力を発掘。歴史的建造物やアートスペース等を活用し「River to River 川のほとりのアートフェスティバル」を2021年から3回開催している。

保見アートプロジェクト

団体名／中島法晃(保見アートプロジェクト) 代表者名／中島法晃
活動地域／愛知県豊田市保見ヶ丘(保見団地)



保見アートプロジェクトは、2019年以来、外国人が3,500人以上暮らす保見団地において、自治区や愛知県住宅供給公社、豊田市等と連携し、落書きや粗大ごみの不法投棄等の問題が山積する象徴の場所になっている共有スペースの壁やごみ集積所を住民との協働によりアート作品に変え、国籍を超えた交流の場を創出している。多文化共生社会の実現の第一歩として相互理解が進みつつある現状である。

クロスブレイ東松山

団体名／医療法人社団保順会 代表者名／辻守史
活動地域／埼玉県東松山市、比企郡



埼玉県東松山市内の高齢者福祉施設「デイサービス楽らく」に常設のアーティスト・イン・レジデンス機能を設置。美術・文学・音楽・演劇・舞踊・伝統芸能等のアーティストを招き、作品創作やリサーチを通じて利用者と職員と文化的な交流を図る。また地域の文化・教育施設等と連携し、住民との交流を行う。活動で得られた知見を広く発信し、芸術・福祉分野の実践者と交流することで、有機的なネットワーク構築に取り組む。

モアザンヒューマンと共存／ Cohabitation with More than Human

団体名／The Termites 代表者名／James Jack
活動地域／香川県小豆郡小豆島町池田



「The Termites」実行委員会は、アートを介した生態系の循環プロセスに焦点を当て、地方におけるコミュニティの形成とアートを介した持続可能な活動の可能性を探ります。

みかんコレクティブ2025

団体名／紀南アートウィーク実行委員会 代表者名／藪本雄登
活動地域／和歌山県 紀南地域(主に田辺市・白浜町)



和歌山県紀南/熊野地域の歴史文化や風土の本質を再発見・再整理し、現代アートを通じてその価値を全世界に発信、国内外の様々な地域や人との文化的な交流を促進しています。2021年は国際芸術祭として開催。2022年からはより地域に根差すべく、紀南の特産品「みかん」を中核に据えたプロジェクト『みかんコレクティブ』をスタート。みかんの新たな価値を再考することで、地域文化を未来に繋いでいくために継続的に活動しています。

釜川クロッシング!

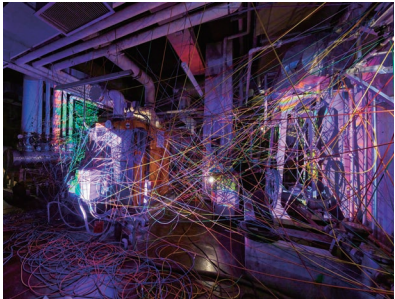
団体名／一般社団法人 釜川から育む会 代表者名／中村周
活動地域／栃木県宇都宮市釜川周辺エリア



釜川および、その周辺地区に関心のある会員が連携し、周辺住民や店主と協働しながら釜川地区の良好な環境形成を図り、魅力的で、活力のある地域を育むことを目的に活動。空き地、空き家、空きビル等を活用したクリエイティブ人材の活動、交流の場の形成や釜川の環境調査、学習イベント等を実施している。また、2020年10月から、釜川周辺エリアにおける官民連携のプラットフォーム「カマクリ協議会」に参画。

マツモト建築芸術祭2026

団体名／マツモト建築芸術祭実行委員会 代表者名／齊藤忠政
活動地域／長野県松本市



国宝松本城や旧開智学校をはじめ、明治から昭和期の土蔵建築や看板建築、世界的建築家 伊東豊雄氏の現代建築など見応えある建築物が数多く存在する松本市中心部。それら多様な名建築の活用方法を見出し、取り壊されつつあるノスタルジックな建物の保存への機運を高めようと、建築とアートを組み合わせ、街全体を会場とする芸術祭を開催。街歩きをしながら会場を回ってもらうことで、街の活性化や経済効果に貢献しようと活動する。

地域振興助成2025年度採択事業 活動紹介

瀬戸内海地域振興助成

WEBでの閲覧はこちら▶



高井神島の「まんがの島」化による自立に向けた「まんが教室」開講準備事業

団体名／なたおれの木 代表者名／木村定
活動地域／愛媛県越智郡上島町 魚島群島 高井神島



人口減少が止まらない島の活性化のため、まんが家から原画提供を受けて空き家等に壁画を描くプロジェクトをすすめています。関係人口を更に増加させるため、さらには島での滞留時間と消費金額を増やすため、これまでに醸成してきたまんが家との関係と、廃校となった小中学校の建物を活用してこれから、まんが家が直接まんがの描き方を教授する「まんが学校」事業をはじめようとしています。

高校生たち若者世代による白石踊継承活動

団体名／白石踊会 代表者名／河田裕善
活動地域／岡山県笠岡市内(白石島を含む)



白石踊が国の重要無形民俗文化財に指定されたのを機に、白石踊の継承と発展のため、白石島の住民を中心に設立された。以来、各種の公演活動や笠岡市との協働による白石踊ツアーや、海外または他の自治体からの賓客への白石踊披露など観光振興と広報の面でも貢献してきた。白石踊はユネスコ無形文化遺産登録され、白石踊会は文部科学大臣表彰などの受賞実績もある。高校生の探究活動としても全国的に注目されている。

ニュー尾道保存計画

団体名／ニュー保存研究会 代表者名／松尾孝之
活動地域／広島県尾道市



1960年から1990年に作られた物や商業施設には“ニュー〇〇”という名前が多く使用された。この時代区分を“ニューの時代”と定義し、文化財と同様に調査・保存することでその価値を見直すことを本プロジェクトの目的とする。尾道の斜面地に建てられた古い街並みや神社仏閣に対して、“ニューの時代”に建てられた建物や文化も同様に尾道の景観維持に重要な要素であることを認知してもらうことにある。

Tainohata project 一多井畑空き家協働改修プロジェクト

団体名／Tainohata project・多井畑空き家協働改修プロジェクト・ 代表者名／西谷聡汰
活動地域／兵庫県神戸市垂水区塩屋町～多井畑



常時自由に利用できる協働のオープンスペースを創出し、子どもからご年配の方、学生や親御さんなどあらゆる世代、どんな立場の方でも気軽に使うことができる、地域の新しい居場所であると同時に、野菜作りや地域行事、イベント、お店などの「やってみたい」にチャレンジできる、自由で開かれた共有空間を提供する活動団体。地域広報誌の作成やまちの子ども会の活動の引き継ぎなどまちづくりの活動も継続して行う予定である。

歴史的建築物の保存・活用促進事業:西国街道三原本町の地域資源を未来へつなぐ人材・コミュニティづくり

団体名／株式会社まちづくり三原 代表者名／赤利俊彦
活動地域／広島県三原市本町地域



三原市で創業支援や移住促進などの地域活性化事業を行うまちづくり会社。歴史的建築物の残る本町地区においては、豪商跡である古民家の再生や、物件所有者と利用希望者への支援を行ってきた。まちなみを構成する物件の保存や活用を通じて、まちづくりの目線から、三原が「まちの担い手」たちの個性を発揮する実験・挑戦の場となり、これを通じて地域への愛着や縁を深めていくような関係性や事業づくりを目指している。

相互扶助コミュニティにおける次世代型大工育成プロジェクト

団体名／リノベイティブ大工育成学校 代表者名／櫻優志
活動地域／広島県呉市豊町大崎下島久比集落



私たちは「ヒト・モノ・コトのクリエイ트가生まれ続ける場所」をコンセプトに、プロの大工と素人がごちゃ混ぜになりながら家づくりの技術・技能を学び、クリエイтすることの面白さを分かち合うことのできるコミュニティづくりを目指しています。現在も相互扶助文化の残る大崎下島・久比を拠点に、空き家の増加、大工・職人の減少といった社会課題に対し、これからの家づくりの担い手像について、実践を通じて探求しています。

「地域の名人」の文化継承アーカイブとアクティビティ造成

団体名／一般社団法人arc 代表者名／藤田然吏
活動地域／香川県高松市塩江町



一般社団法人arc(あるく)は、専門家とともに地域を「あるく」ことで、見慣れた風景の中から新たな価値を探索し、教育・観光事業につなげる事を目的に活動しています。理念は、「かたいものをやわらかく」。地域の持つ歴史・文化・伝統・大地に生きる動植物・生態系の魅力を発見し、各種プログラムやアクティビティを提供する事で、人と人、人と自然のつながりを創出することに努めます。

～石材加工体験や島民との交流を通じ、犬島の歴史と暮らしを学ぶ学生プログラム～

団体名／大阪工業大学学生プロジェクトチーム 代表者名／勝田壮
活動地域／岡山県岡山市東区犬島



2022年6月、直島、豊島、犬島のアート施設を訪れ、フィールドワークや島民インタビューを実施。犬島を題材にソフトプログラムや新施設案を提案し、オンライン発表。2023年9月に犬島展示会を実施し、外国人観光客向けパンフレット作成や島民との意見交換会を定期的に実施。島の景観デザインや古民家再生調査も行っている。

白市町家保存・再生・活用プロジェクト

団体名／NPO法人白市町家保存会 代表者名／伊原聡子
活動地域／広島県東広島市高屋町白市



2023年8月に白市町家保存会が発足。広島県東広島市高屋町白市地区に現存する文化財をはじめとする近代和風建築の保存、再生及び活用と、その歴史的文化的遺産の普及・啓発に関する事業を行い、次世代に継承するまちづくりと環境、景観保全を進める非営利活動を行う。2024年8月NPO法人白市町家保存会設立。

安芸高田市の空家再生事業「土に還る家」:廃棄物問題をベースとし、瀬戸内広域圏をつなぎ、地域資源を活用したエコロジー実践の場を作る

団体名／Yellow River College 代表者名／福田恵
活動地域／広島県 広島市、及び安芸高田市



本団体は、アーティスト、キュレーター、デザイナー、建築家など、分野を超えたクリエイターが協同するコレクティブ。安芸高田市にある空き家改修計画を契機に2021年に結成。人間の自然との関わりや、風土の中で生まれ育つ生活様式・価値観・課題など、およそ人間と人間の生活に関わる総体を広義の「文化芸術」と捉え、芸術文化の振興、地域社会の発展、あらたな思想の構築や価値体系の創出を目的とし活動している。

島の空き家“家島BASE”を活用した学生活動「HRA」(*Home Reborn Activation)

団体名／いえしまコンシェルジュ株式会社×流通科学大学辻本乃理子ゼミ
代表者名／中西和也 辻本乃理子
活動地域／兵庫県姫路市家島町



「島の暮らしを存続させる」いえしまコンシェルジュと地域社会への貢献及び実践教育を重んじる流通科学大学辻本乃理子ゼミが協働で、家島をフィールドとして、地域課題の解決・実践教育を目的として活動する。1年目23年度は乃理子ゼミによる家島を知るためのフィールドワークを実施。2年目24年度は学生の活動拠点となる場づくりのため、家島の空き家改修活動をいえしまコンシェルジュと辻本乃理子ゼミの学生とともに活動開始。

男木島グッドサイクル道場PJ

団体名／明治大学地域デザイン(川島範久)研究室 代表者名／山崎直樹
活動地域／香川県高松市男木町



環境ポテンシャルをいかすエコロジカルな地域・建築デザインを目標とし、島内唯一の寺と納屋の保存活動を島中夫妻と協力して行なっている。また、島外に拠点を持つ本研究室という立場だからこそ、島民と移住者を繋ぐことができる。外部の人間である私たちが島内で活動しつつ、新しい道場を男木島のコミュニティの中心として島民に受け入れてもらう第一歩として、隣接する納屋を「宿泊施設兼交流スペース」に改修する。